

日本学術会議  
土木工学・建築学委員会低頻度巨大災害分科会  
(第24期・第8回)

日時：令和2年8月4日(火) 10:00～12:00

会場：日本学術会議5階5-A(2)会議室

出席者：天野玲子(スカイプ参加)、磯部雅彦(スカイプ参加)、小林広明(スカイプ参加)、  
寶馨、田村和夫、塚原健一(スカイプ参加)、西嶋一欽、緑川光正(スカイプ参加)、  
山本佳世子、和田章(五十音順、敬称略)

配布資料：

資料1：記録案「低頻度巨大災害分科会の議論の記録～国難にしないために～」

資料2：土木工学・建築学委員会(低頻度巨大災害分科会)

資料3：建設通信記事

議事

0. 出欠確認

1. 記録の最終取りまとめについて
2. 今期 低頻度巨大災害分科会の活動の総括
3. 次期への引継ぎ事項について
4. その他

0) 出欠確認

・寶委員長が委員の出席が定足数を満たしていることを確認した(17名中10名出席)。

1) 記録の最終取りまとめについて

・寶委員長より、資料1をもとに、記録の最終取りまとめについて説明があり、了承を得た。  
・和田委員より、記録もウェブサイトに掲載されること、本分科会の活動の今後について検討する必要があることが示された。

2) 今期 低頻度巨大災害分科会の活動の総括

・寶委員長より、資料2をもとに、今期の低頻度巨大災害分科会の活動の総括がなされた。資料3のように、3月の日本学術会議と防災学術連携体が共催した学術シンポジウムの記事が建設通信新聞に掲載されたことが報告された。

3) 次期への引継ぎ事項について

- ・寶委員長より次期への引継ぎ事項として、地球惑星科学委員会との連携、第1部、第2部との連携、分科会の報告を他の委員会や第一部、第二部とも共有することについて提案され、各委員から意見が出された。
- ・和田委員：本分科会の記録を他の委員会、分科会の委員に、委員長からインフォーマルに送付すること、1期ほど休むことが望ましい。また、これ以上の災害だと諦めるという点についての議論も重要である。
- ・西嶋幹事：分科会で議論する時間が少なく、1期ほど休むにしてもその間の議論をどうやって継続するのか。
- ・和田委員より、災害に関する提言は今までに多い。本分科会の議論を継続するには、オンライン会議等も用いることができる。

そのほか、以下のようなコメントがあった。

- ・永野委員より、地球惑星科学委員会との連携をどのようにするのか。
- ・田村委員より、記録は委員が納得する形式でまとめられたが、具体的に展開するときはどうするのかは次段階である。
- ・山本幹事より、各委員から多様な意見が出されたにもかかわらず、記録としてまとめたことは良かったが、提言としてまとめるにはさらに時間が必要だったと感じる。他分野との連携するにあたっては、具体的な接点が必要である。
- ・寶委員長より、日本学術会議の予算制約が、審議回数を確保できない要因ではあったが、2020年になってからオンライン会議が普及し出したので、今後、対面での審議ではない形で頻度を上げられるものと期待している。
- ・天野副委員長より、「纏めるに際しては寶委員長に多大なご苦勞をお掛けしました。この記録が今後の議論のお役にたてることを希望します。」とのコメントがあった。

#### 4) その他

- ・「記録」の最終修正があれば、関係者の協力をお願いしたい。